

2012年3月期 決算説明会

2012年5月11日

株式会社 東海理化

2012/3月期 連結業績

単位:億円

	'12/3月期	'11/3月期	増減額	増減率
売上高	3,195(100%)	3,276(100%)	▲81	▲2.5%
営業利益	131(4.1%)	189(5.8%)	▲58	▲30.4%
経常利益	149(4.7%)	200(6.1%)	▲51	▲25.3%
当期純利益	81(2.5%)	52(1.6%)	+29	+55.2%

前提

為替 レート	US\$	78円	85円	7円円高
	ユーロ	108円	112円	4円円高

2013/3月期 連結業績予想

単位:億円

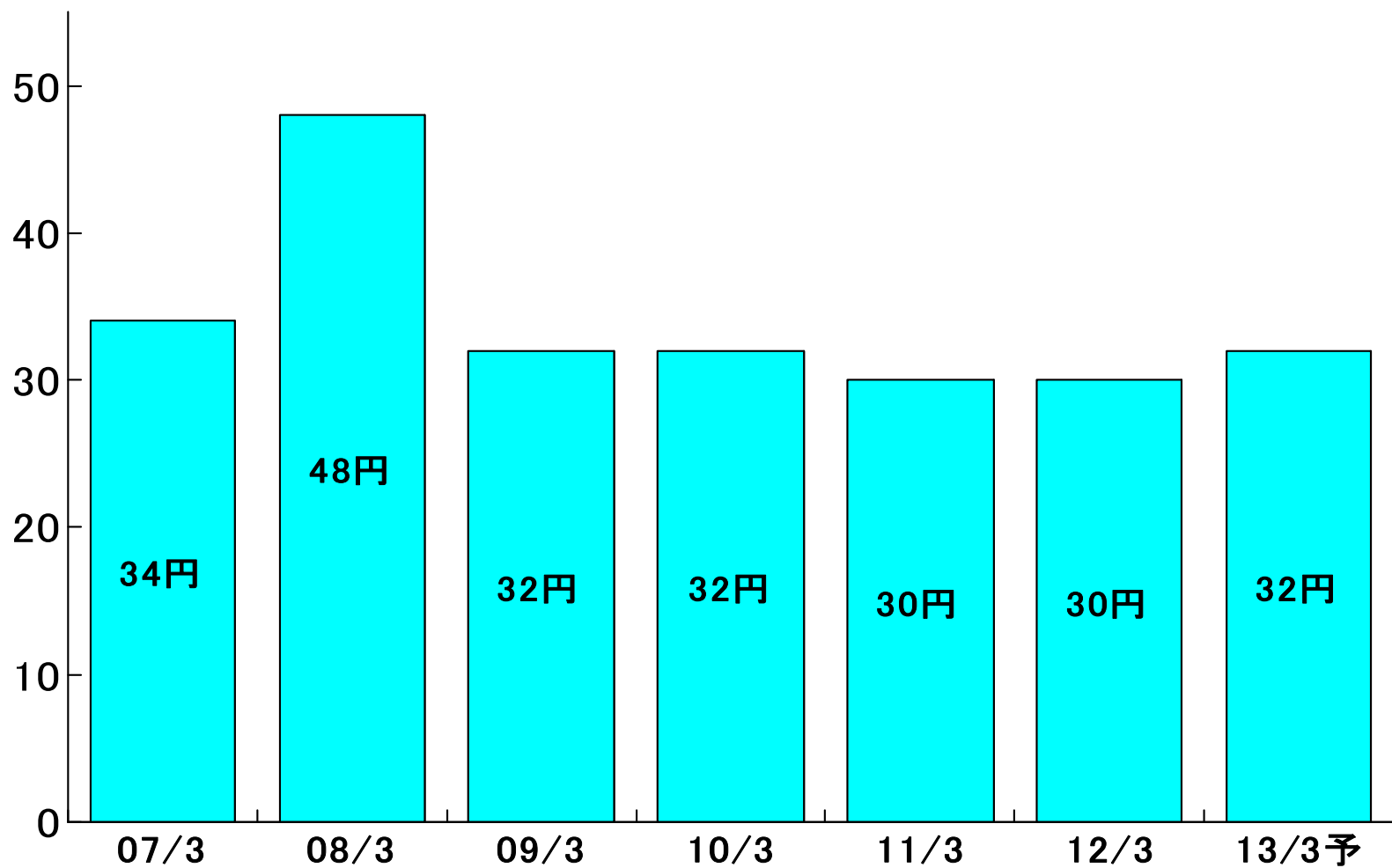
	'13/3月期	'12/3月期	増減額	増減率
売上高	3,560 (100%)	3,195 (100%)	+365	+11.4%
営業利益	230 (6.5%)	131 (4.1%)	+99	+74.8%
経常利益	235 (6.6%)	149 (4.7%)	+86	+56.9%
当期純利益	150 (4.2%)	81 (2.5%)	+69	+84.6%

前提

為替 レート	US\$	80円	78円	2円円安
	ユーロ	105円	108円	3円円高

配当

(単位:円)



配当性向 17.2% 20.3% 271.9% 22.9% 51.8% 33.4% 19.3% 4

決算補足説明



2012/3月期 連結業績

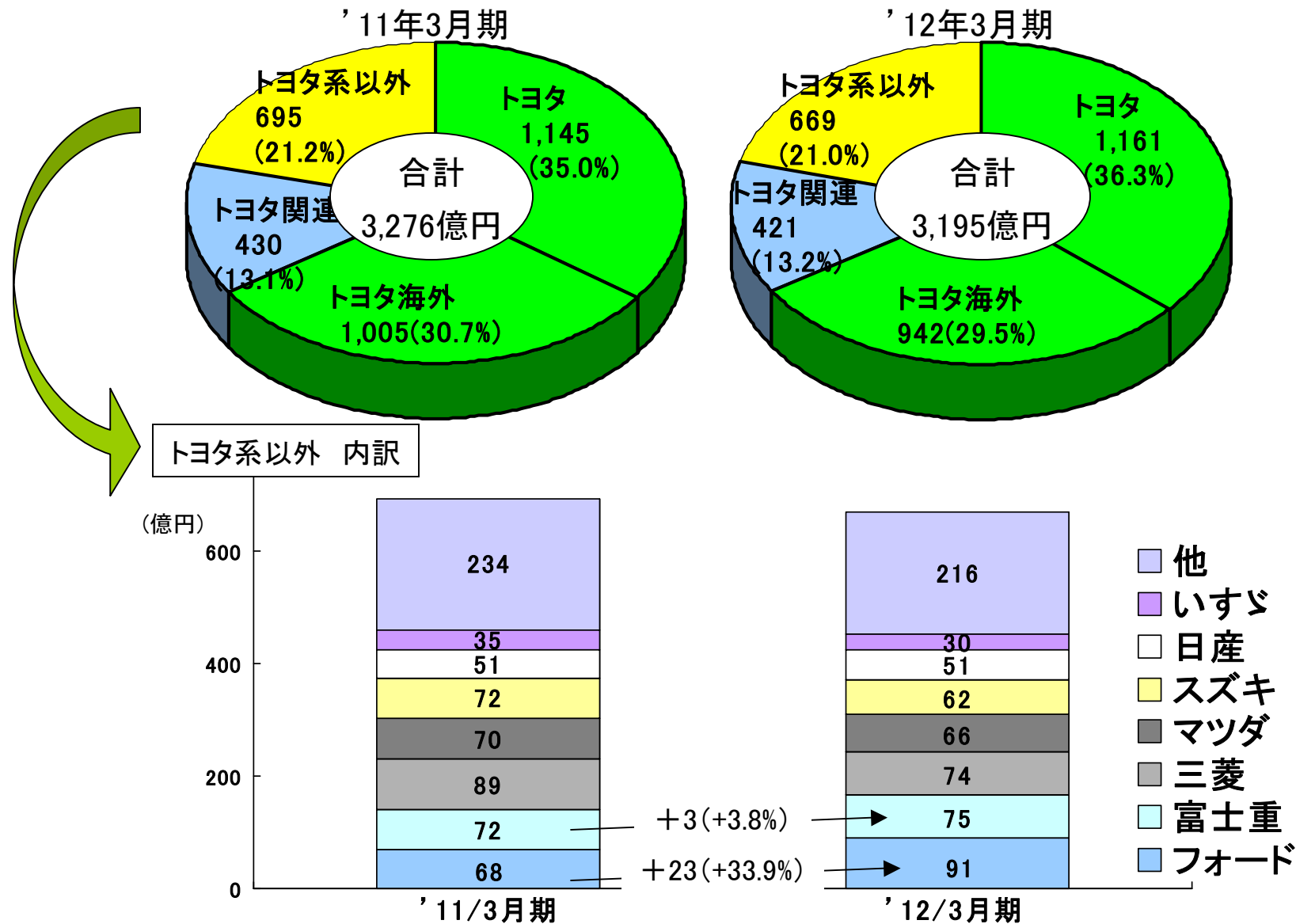
単位:億円

	'12/3月期	'11/3月期	増減額	増減率
売上高	3,195(100%)	3,276(100%)	▲81	▲2.5%
営業利益	131(4.1%)	189(5.8%)	▲58	▲30.4%
経常利益	149(4.7%)	200(6.1%)	▲51	▲25.3%
当期純利益	81(2.5%)	52(1.6%)	+29	+55.2%

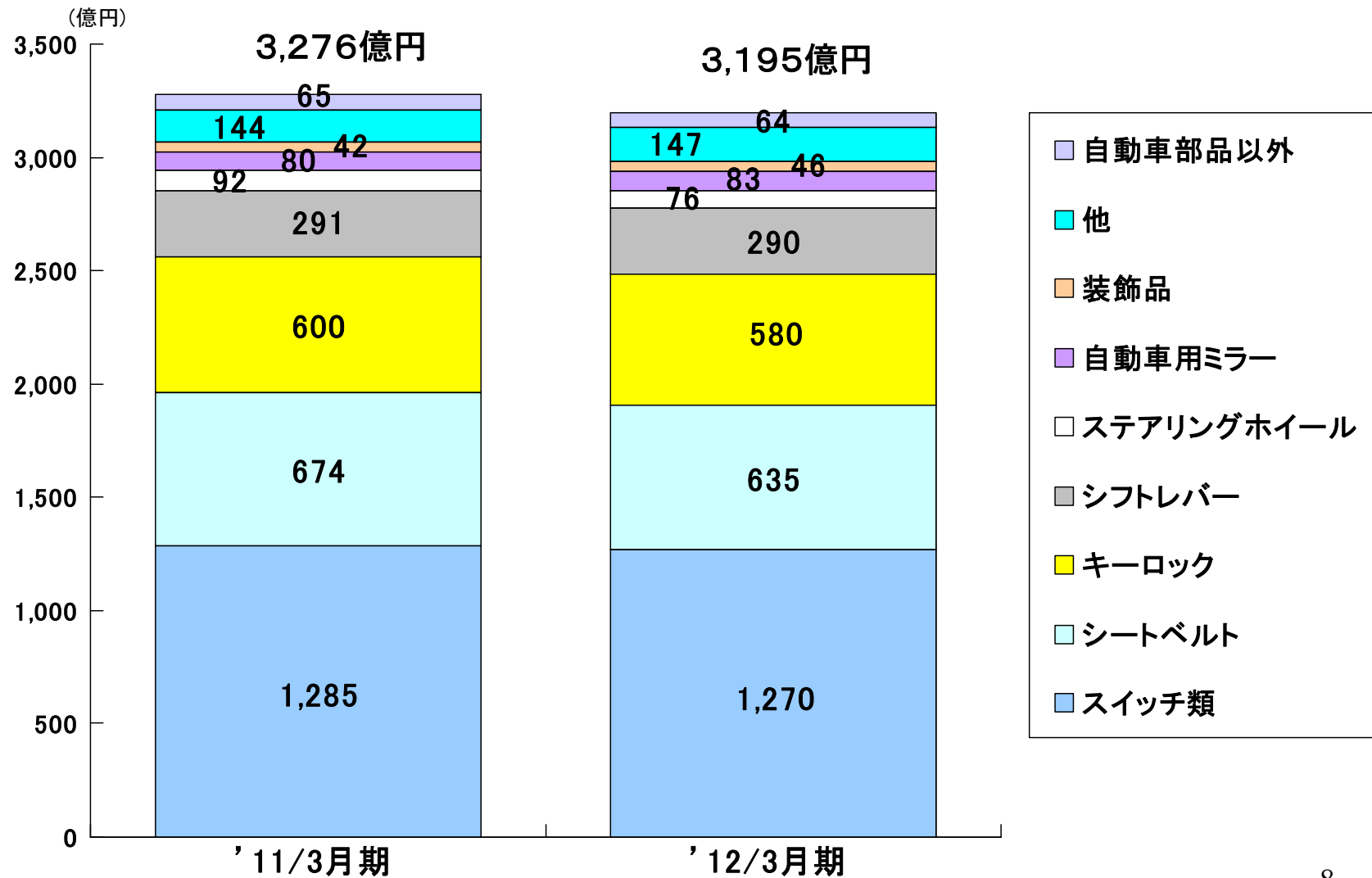
前提

為替 レート	US\$	78円	85円	7円円高
	ユーロ	108円	112円	4円円高

2012/3月期 連結売上高① 客先別

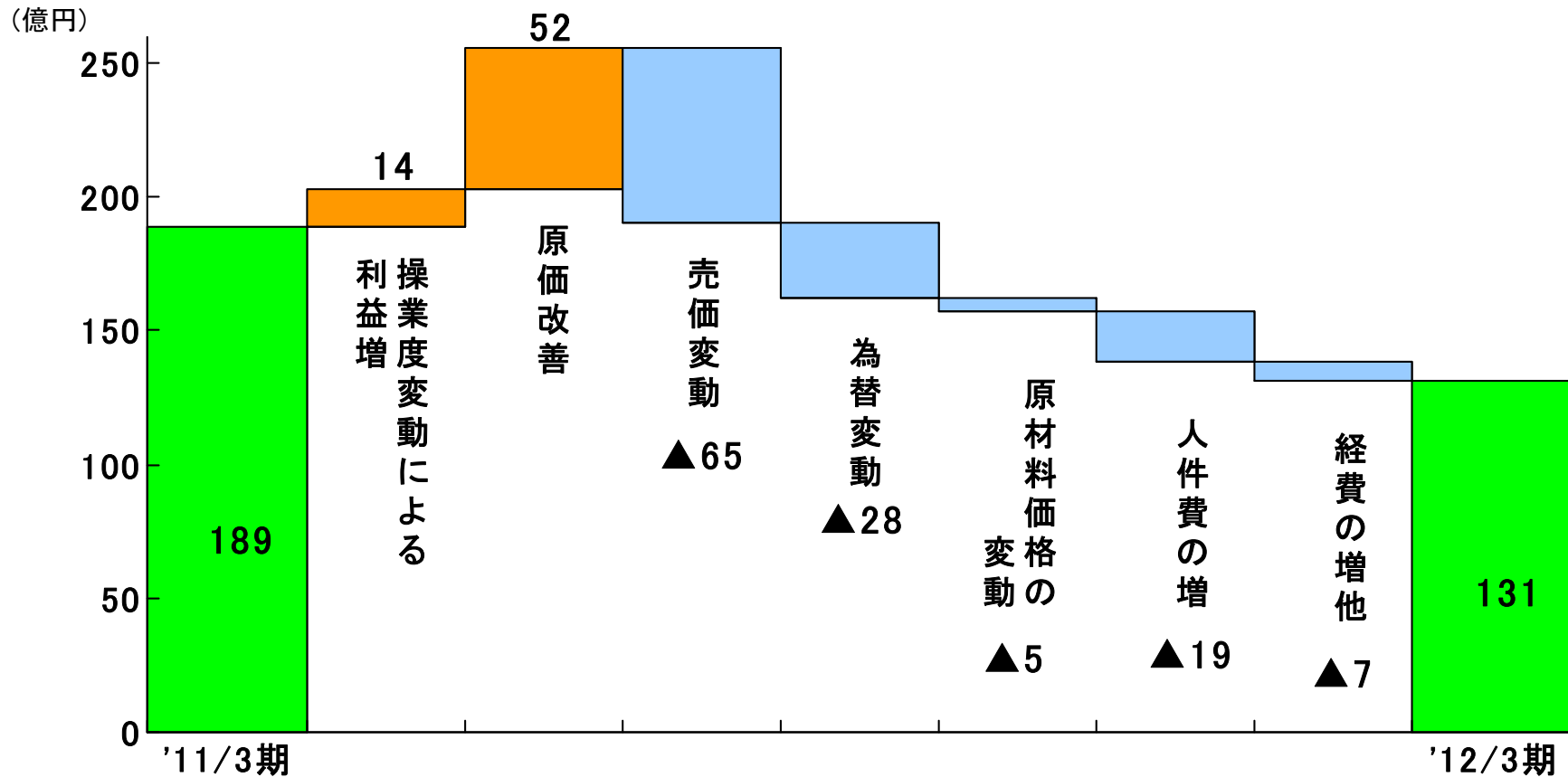


2012/3月期 連結売上高② 製品別



2012/3月期 営業利益増減要因

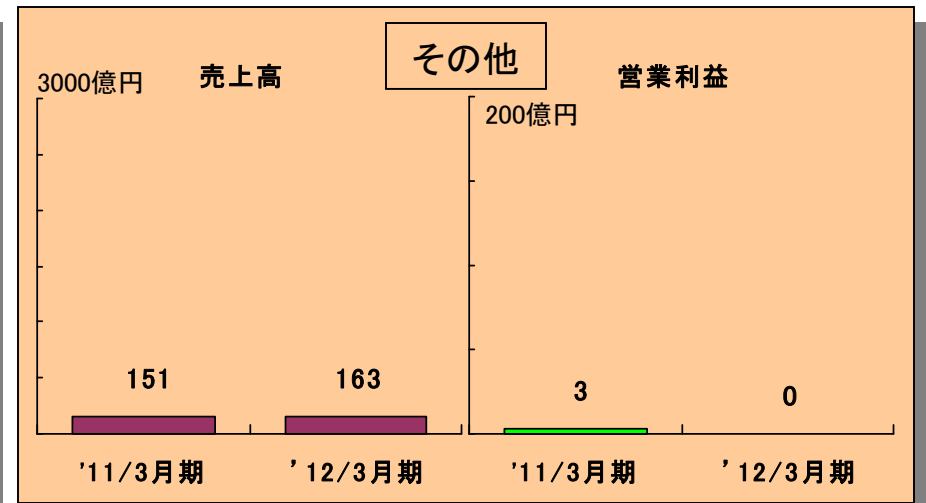
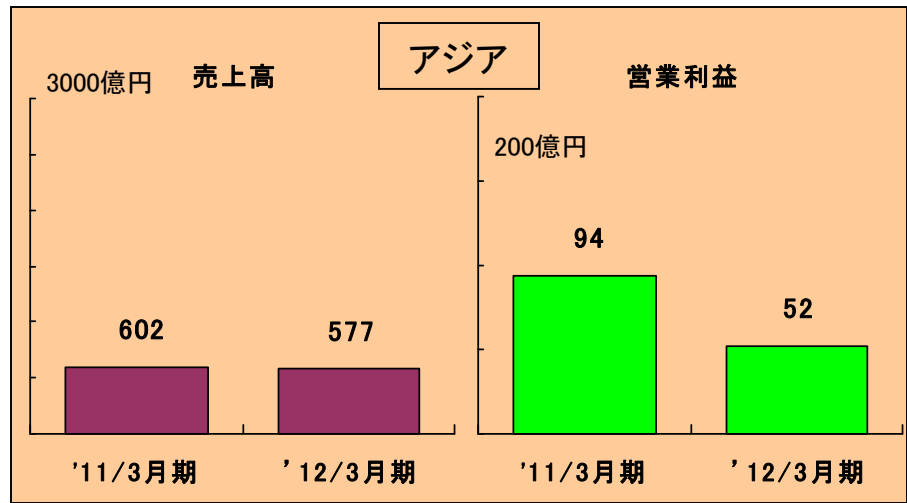
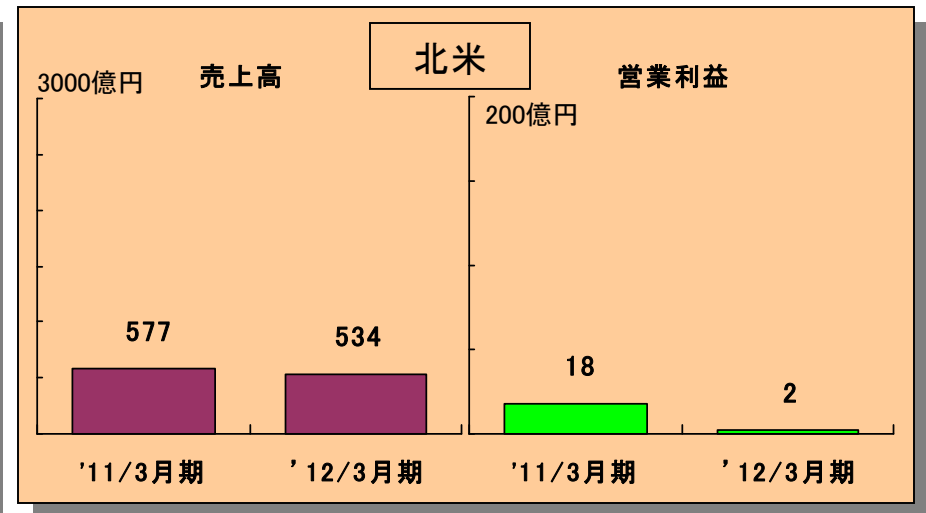
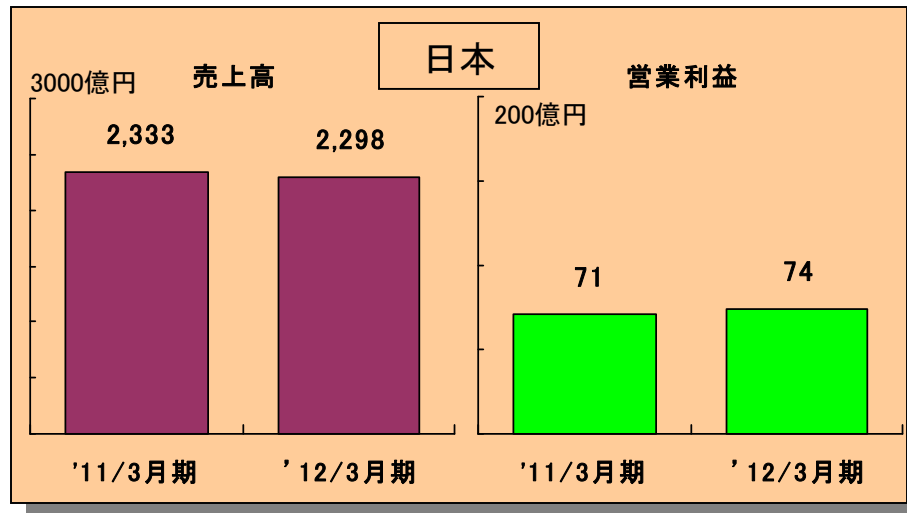
2012年3月期(対2011年3月期): 58億円減益



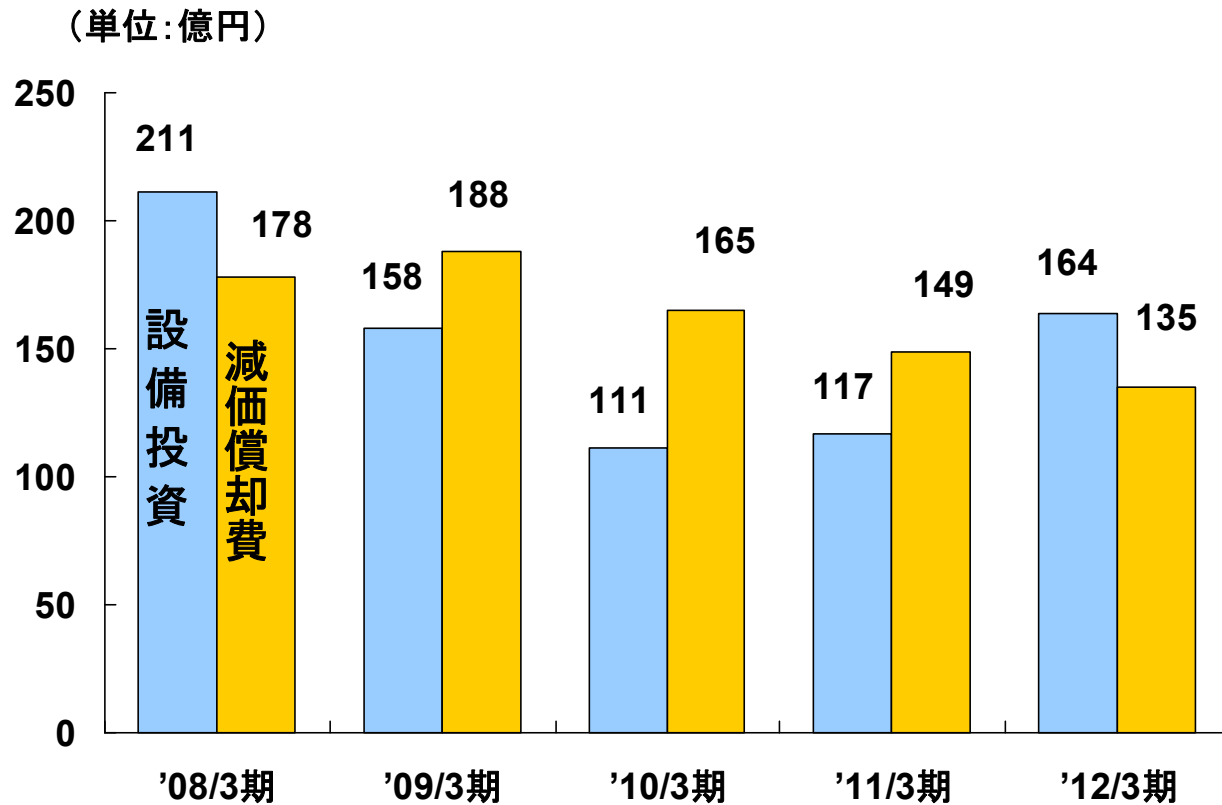
原価改善の内訳

材料費 39億円、労務費 13億円 ⇒ 計 52億円

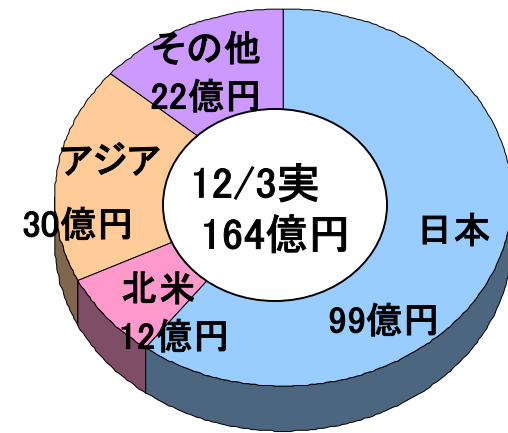
2012/3月期 所在地別セグメント情報



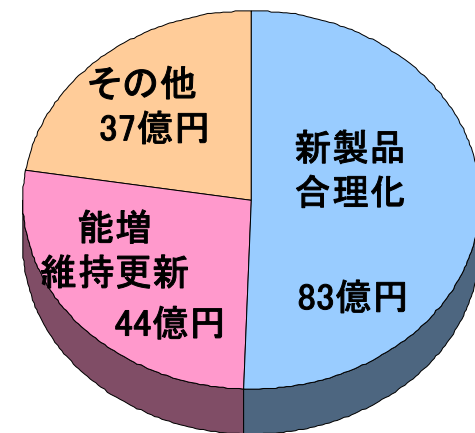
設備投資・減価償却費(2012/3月期実績)



[地域別 設備投資]



[目的別 設備投資]



日本(新製品対応他)、ブラジル主体に積極投資

2013/3月期 連結業績予想

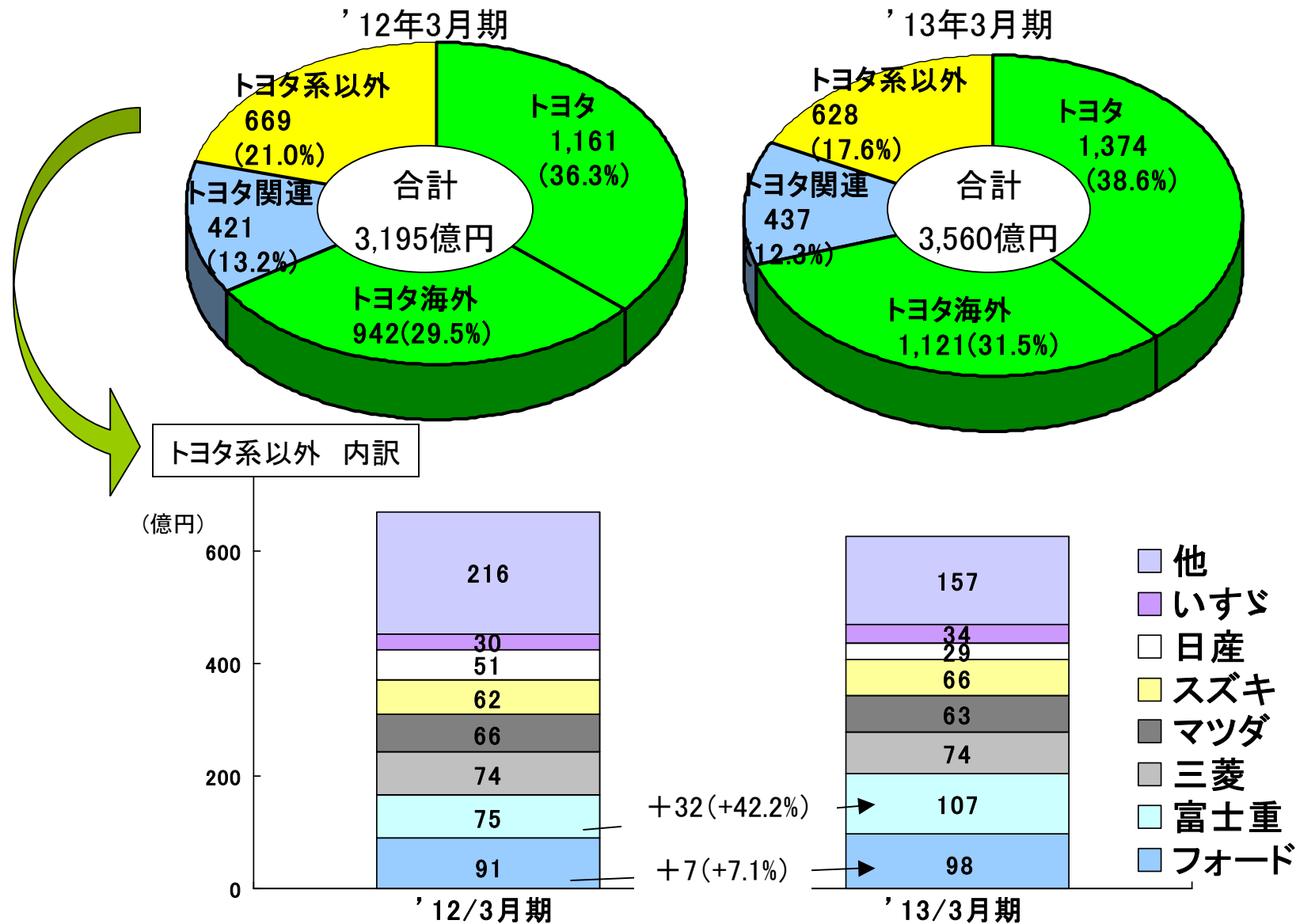
単位:億円

	'13/3月期	'12/3月期	増減額	増減率
売上高	3,560 (100%)	3,195 (100%)	+365	+11.4%
営業利益	230 (6.5%)	131 (4.1%)	+99	+74.8%
経常利益	235 (6.6%)	149 (4.7%)	+86	+56.9%
当期純利益	150 (4.2%)	81 (2.5%)	+69	+84.6%

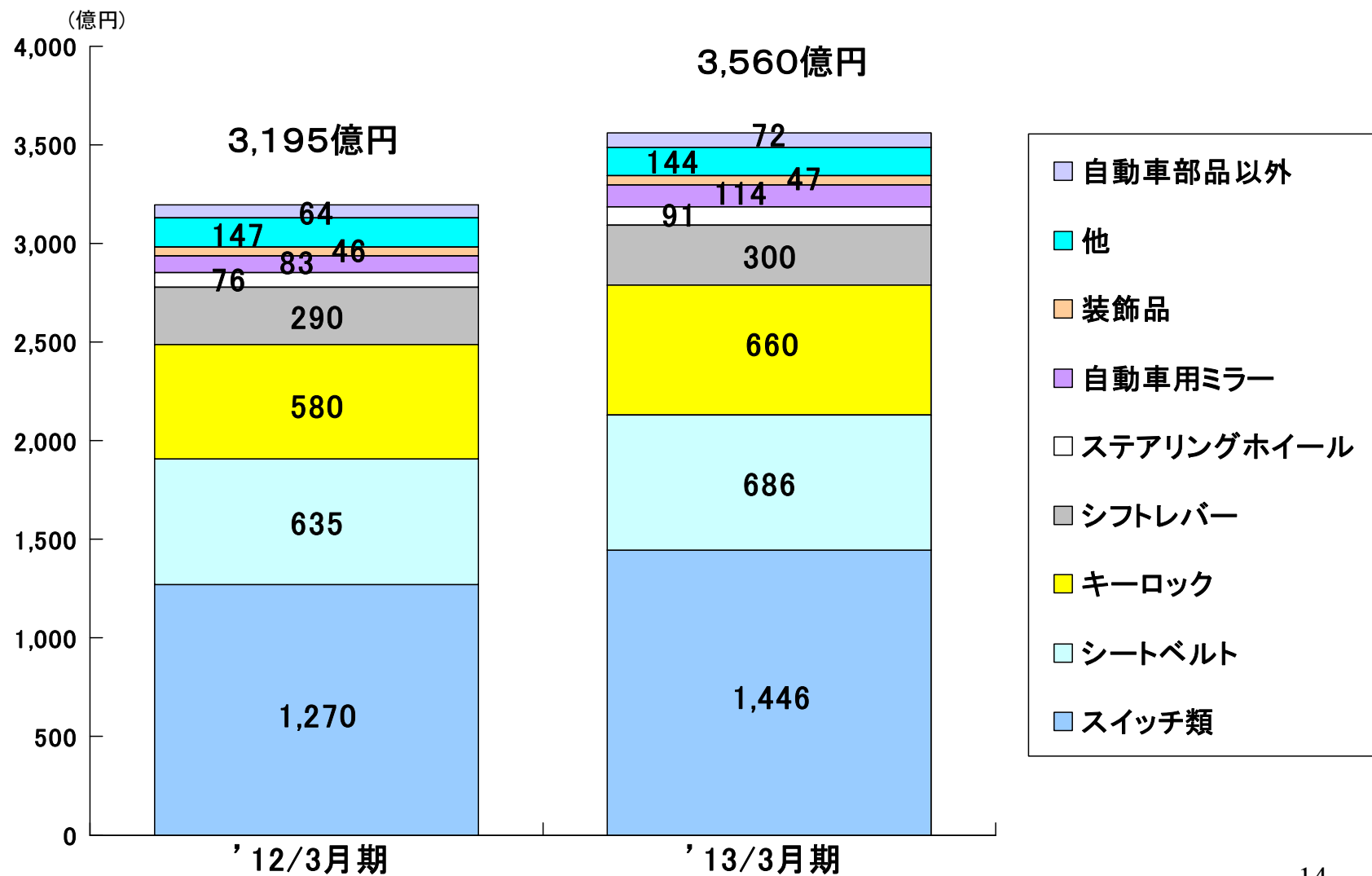
前提

為替 レート	US\$	80円	78円	2円円安
	ユーロ	105円	108円	3円円高

2013/3月期 連結売上高予想① 客先別

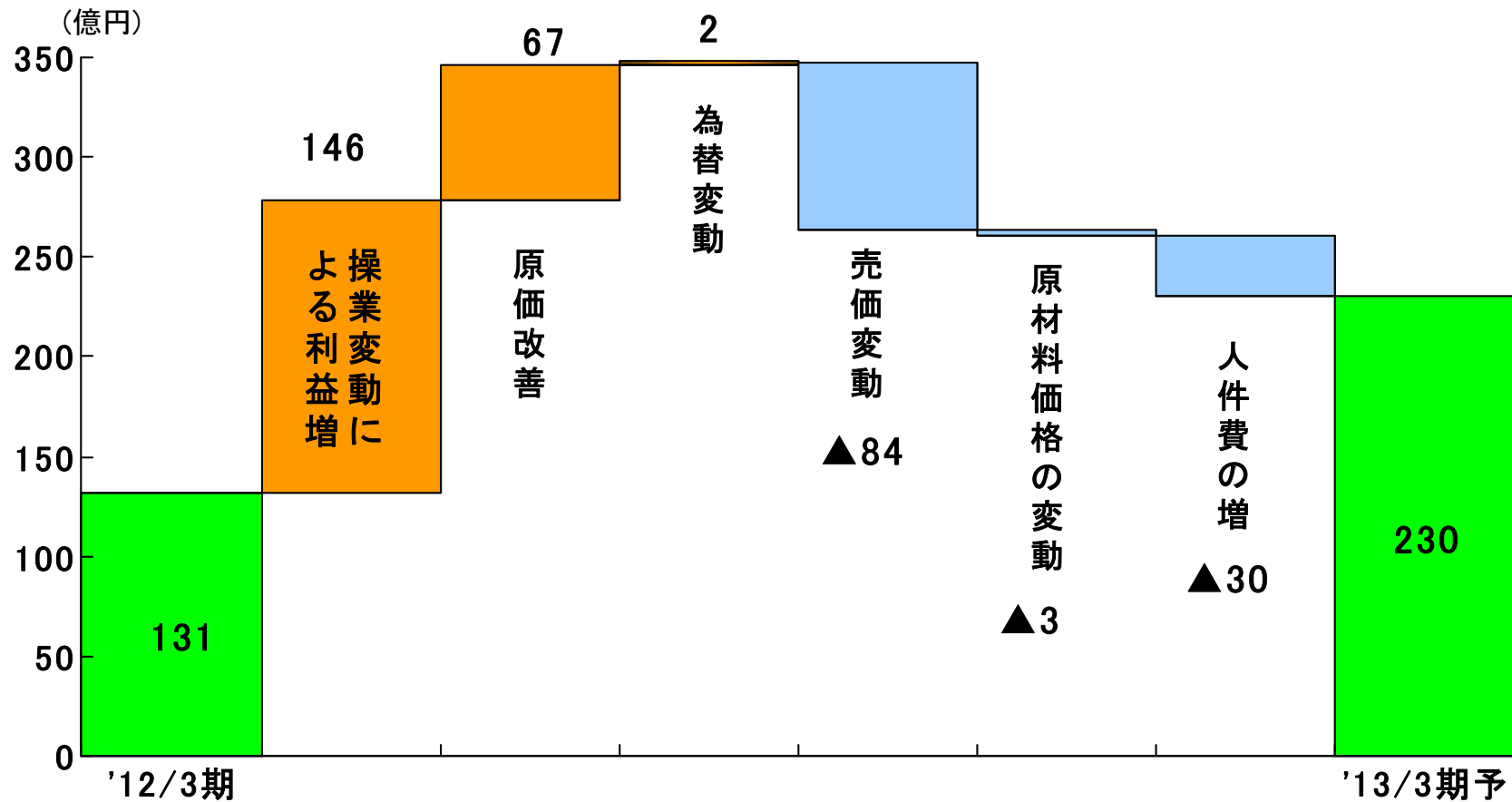


2013/3月期 連結売上高予想② 製品別



2013/3月期予想 営業利益増減要因

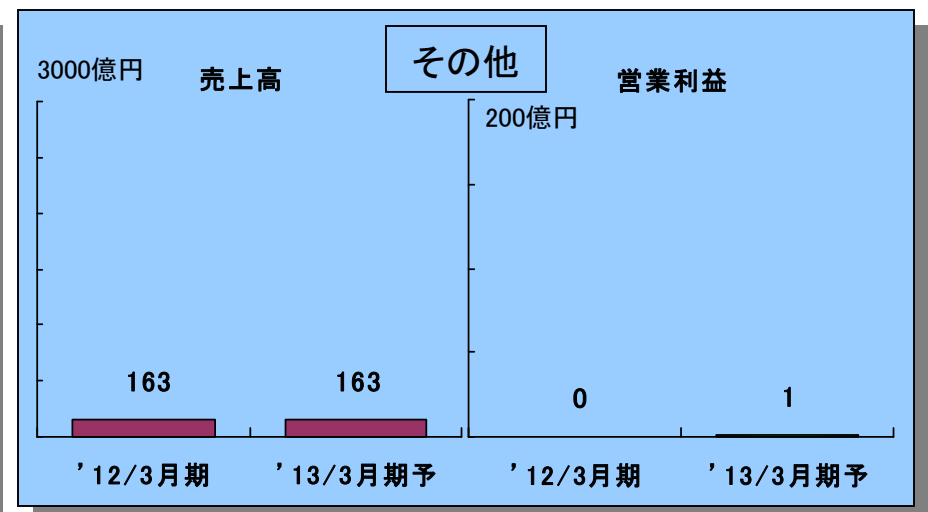
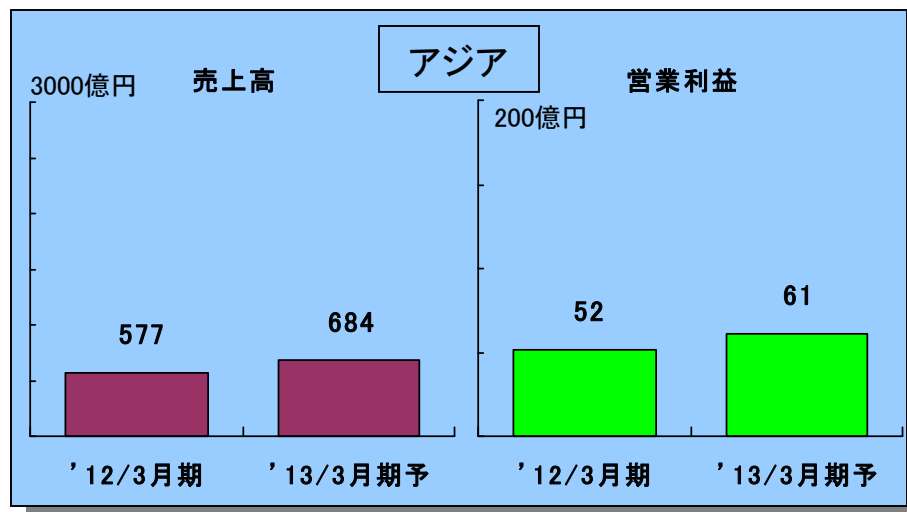
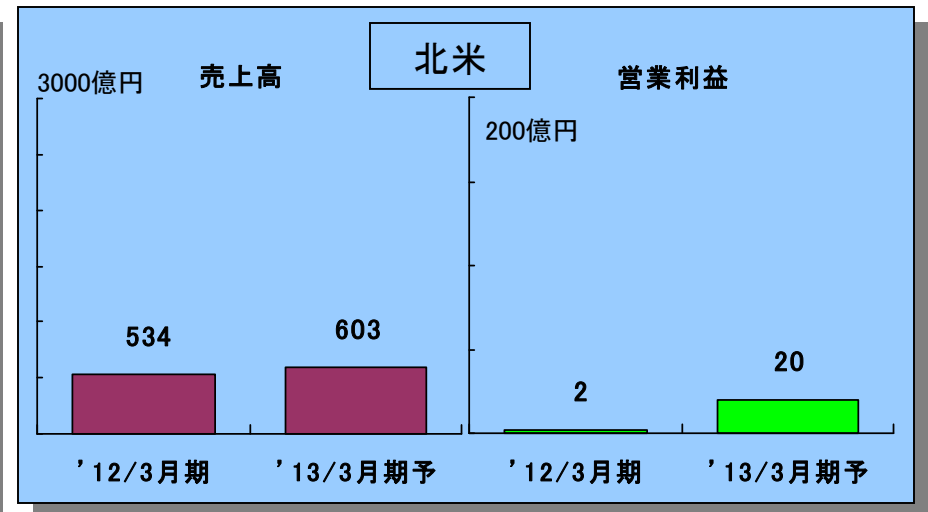
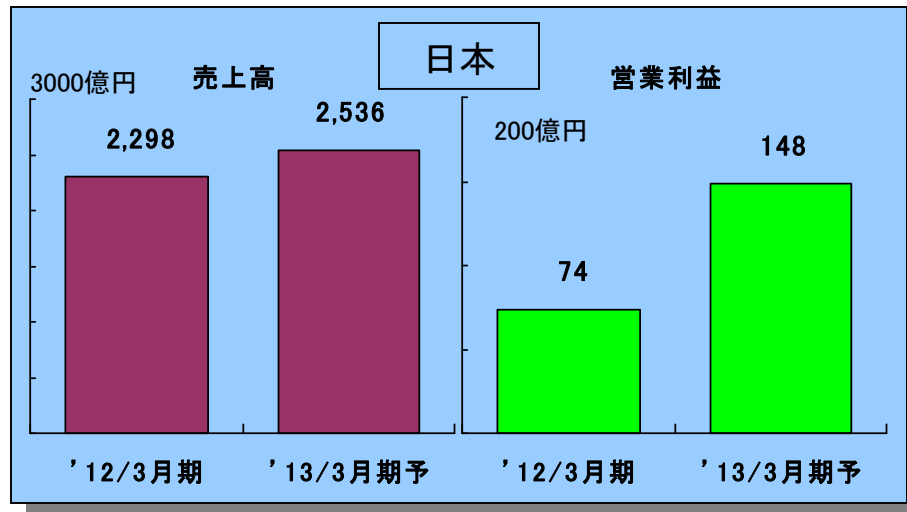
2013年3月期(対2012年3月期): 99億円増益



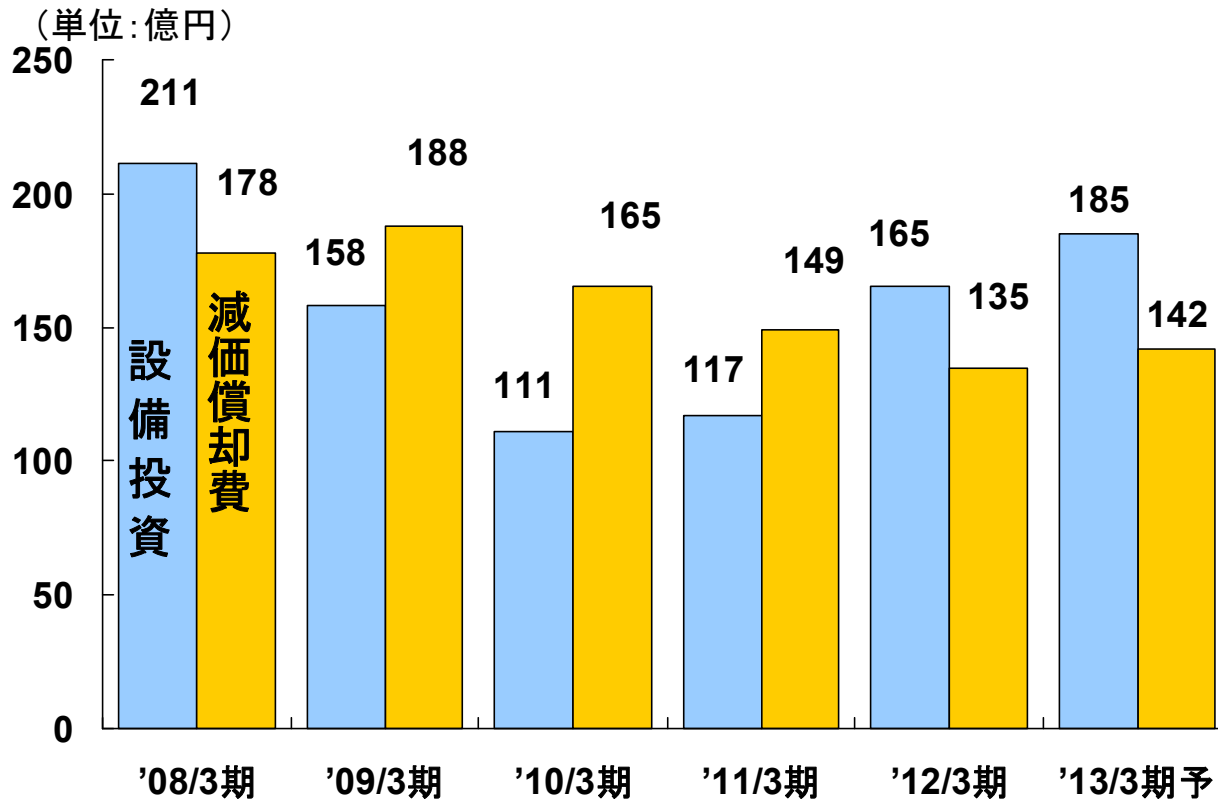
原価改善の内訳

材料費 47億円、労務費 20億円 ⇒ 計 67億円

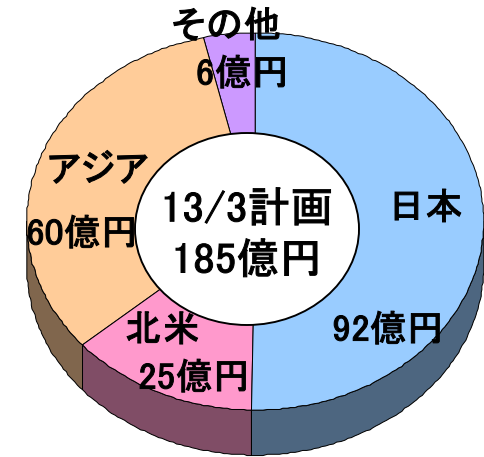
2013/3月期予想 所在地別セグメント情報



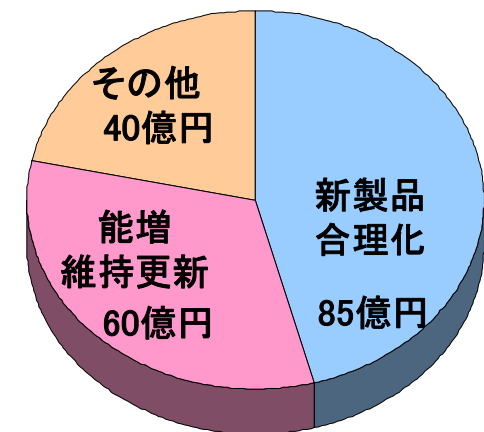
設備投資・減価償却費 2013/3月期計画



[地域別 設備投資]

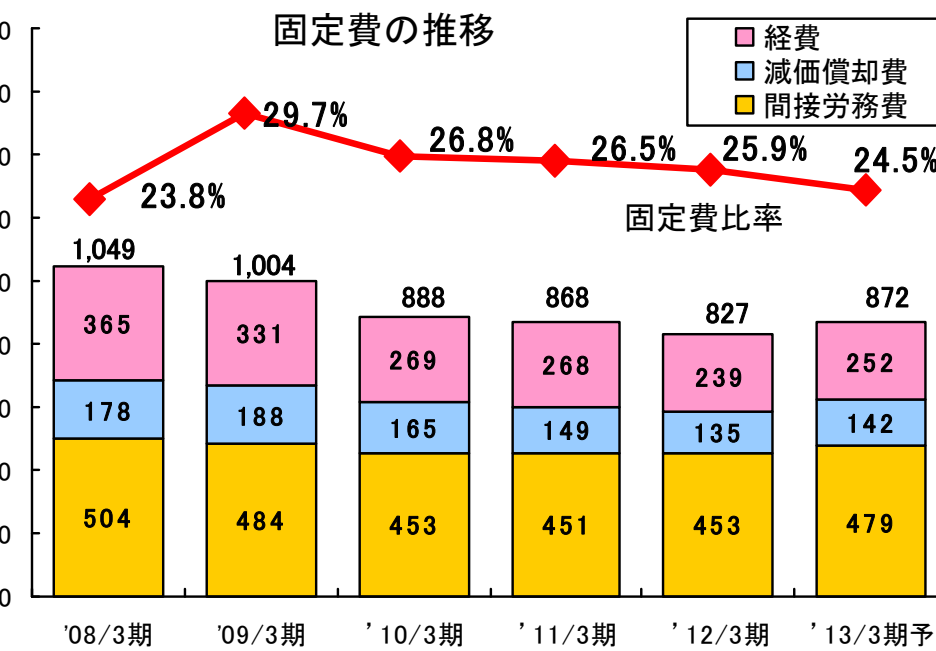
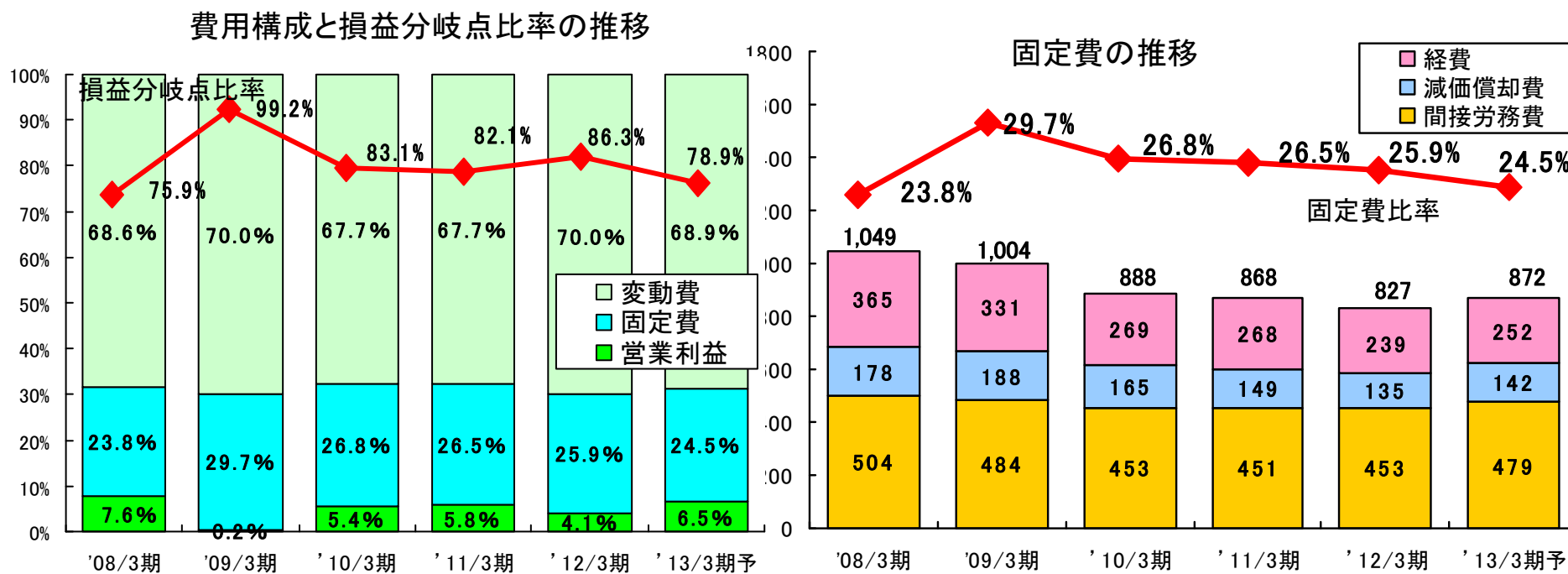
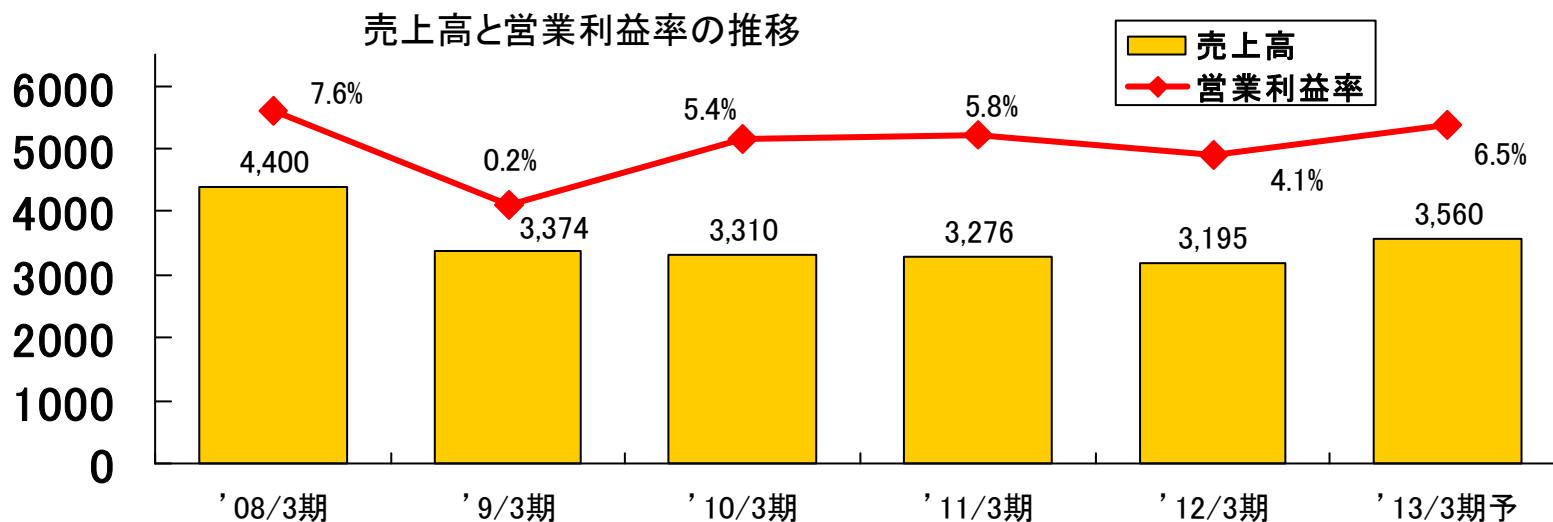


[目的別 設備投資]

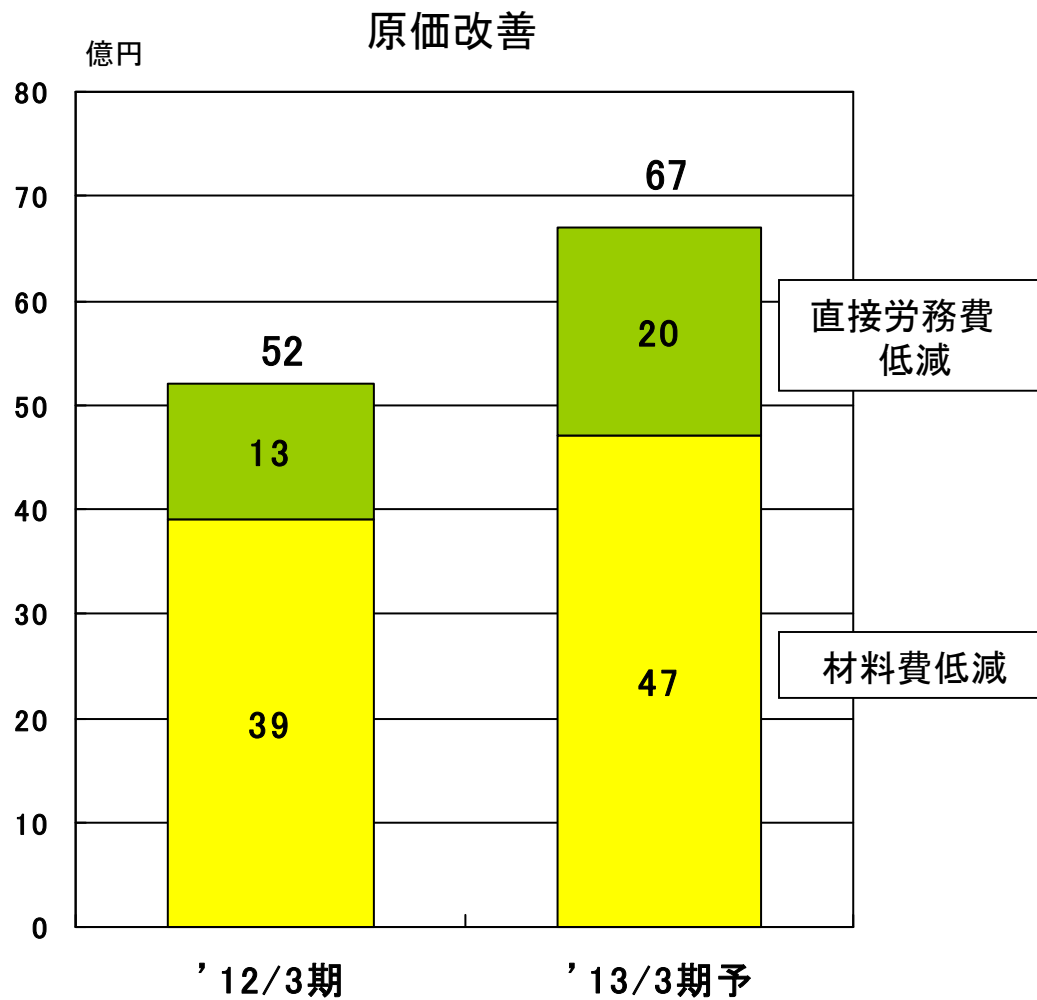


事業拡大が見込めるアジアへの投資を拡大
 ('12/3月期 30億円 → '13/3月期計画 60億円)

収益力・財務基盤の充実



変動費の改善



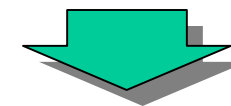
変動費改善の取組

直接労務費低減:

生産性向上(工数低減)活動
自動化・省人化

材料費低減:

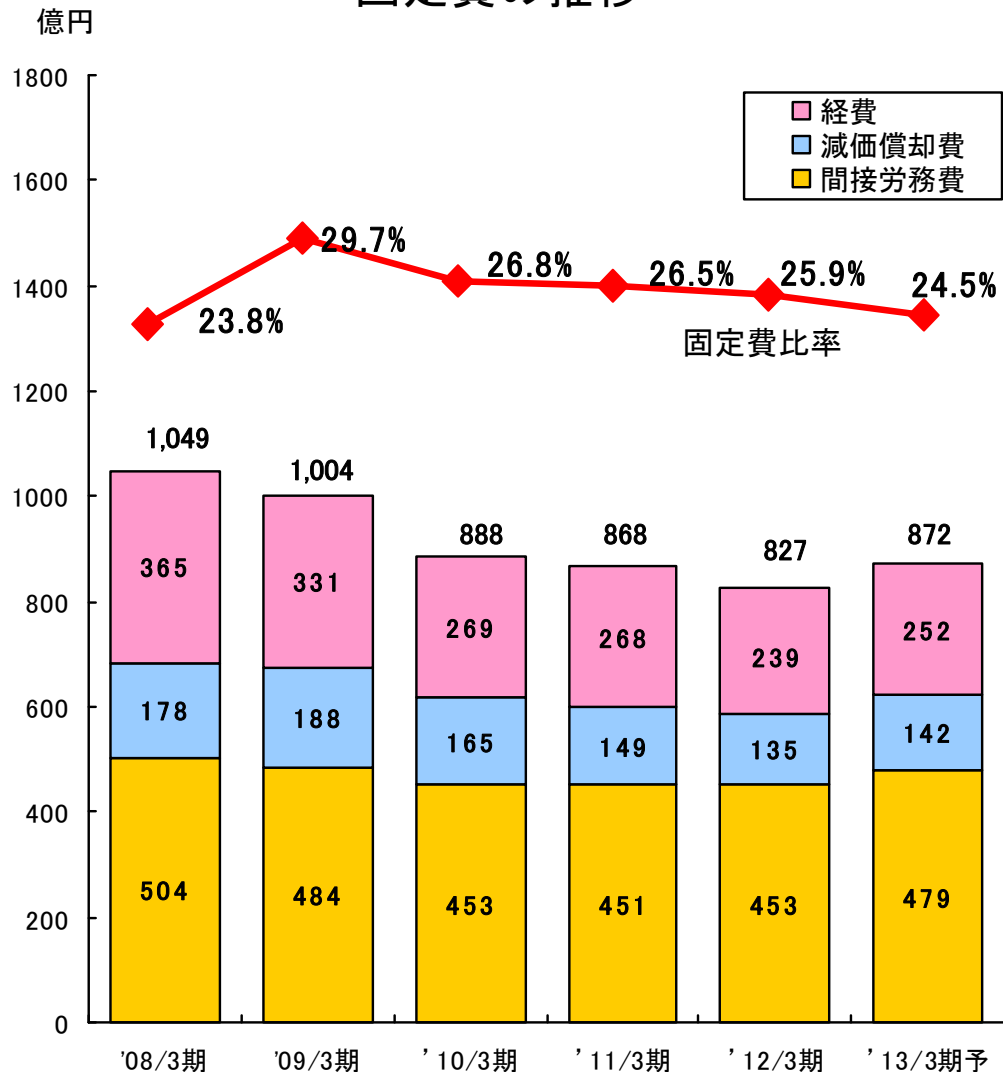
設計改善(VE・VA)
買い方改善
材料歩留まり向上
現調化(原材料・部品・組立)
RRCI活動



売価変動を吸収

固定費の改善

固定費の推移



固定費改善の取組

寄せ止めによる固定費の有効活用

西枇杷島工場の統合('10年10月統合効果7億円)
子会社の工場を吸収('11年5月吸収効果1.3億円)

経費:

リーマンショックを契機に、ゼロベース予算を展開し、
固定経費を抜本的に見直し

品質向上により、ロス経費を90%低減('08/3期比)

定期保全から定理保全への見直しにより、修繕費を
30%低減('08/3期比)

減価償却費:

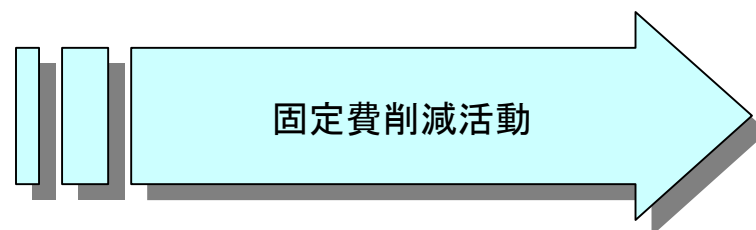
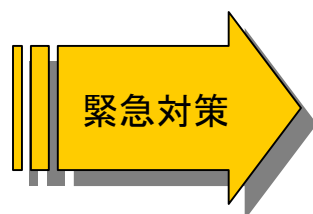
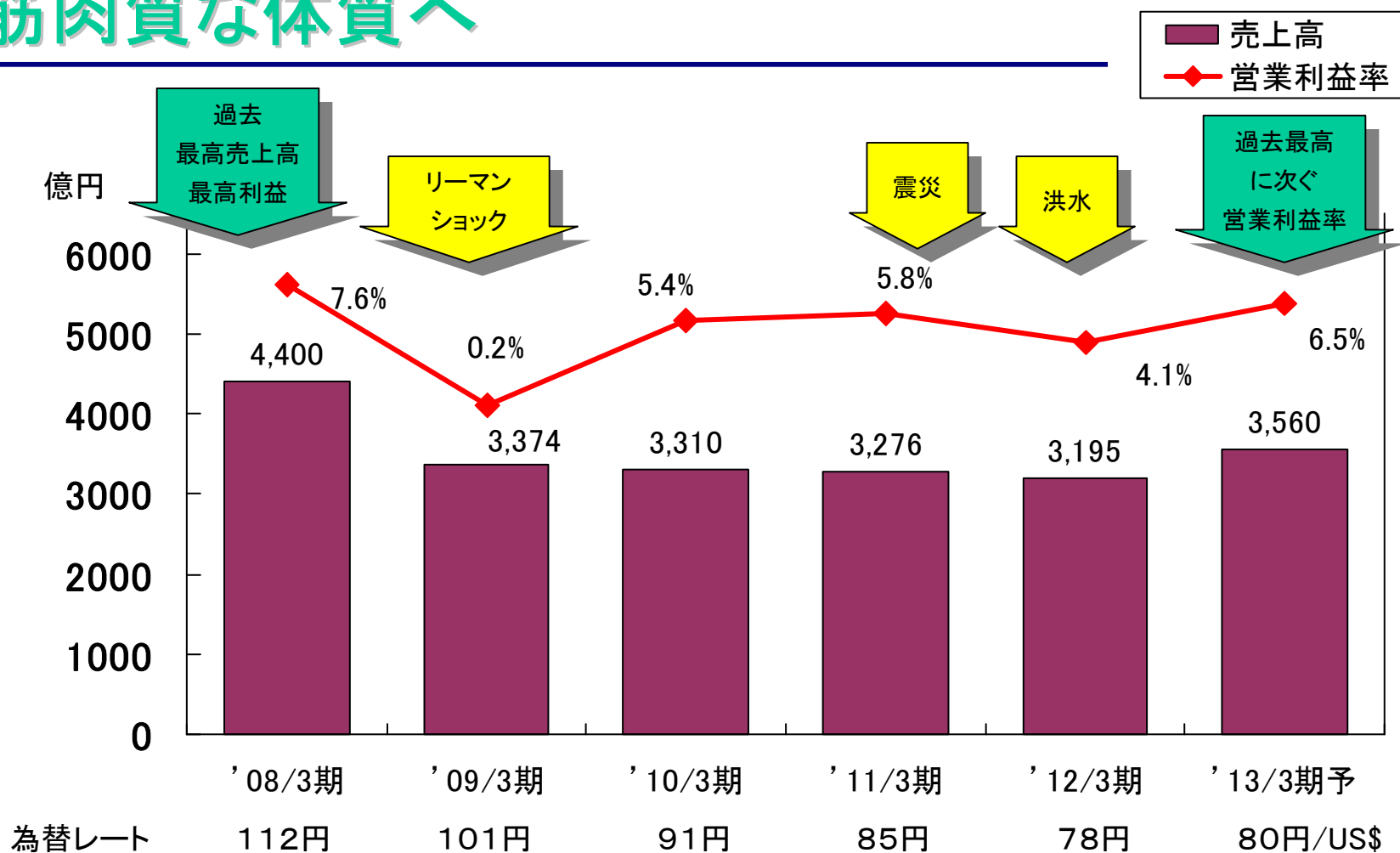
海外拠点の拡充には積極的に取組む一方で個々の
投資は案件毎に精査し、総投資額を抑制

間接労務費:

業務の効率化により人員増を抑制
(単独間接人員: '09/3期4620名→'12/3期4450名)

生産応援により、固定労務費を変動費化
(最大200人/月規模で実施)

筋肉質な体質へ



当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。